

## 憎かった母を受けとめたとき、 トラウマが消え、 私の人生が動き始めました。

八王子教会 須藤弘子さん

弘子さんは幼い頃、母親から虐待を受けた。父親は給料の大半を酒代に使い、家計はいつも火の車。夫婦げんかが絶えずに「あんたを生んだのは間違いだっ」と苛立ちの対象にされた。挙句の果てに、母親は借金を残して男と行方知らずとなる。弘子さんの胸中は母親への暗く深い憎悪で満ちていた。20歳の時に結婚。仲睦まじい家庭を夢見てほどなく妊娠したが、流産。その後何度か流産を繰り返し、子を産めない罪悪感と悲しみに打ちひしがれ、自暴自棄になってしまう。しかし昔とは違い、弘子さんのまわりには、心に寄り添い、自分の苦しみや悲しみを受けとめてくれる仲間がいた。しだいに心が癒され、自分の過去を振り返る心のゆとりが生まれる。仲間の一人からの「君はお母さんの気持ちを受けとめて、救っていたのかもしれないね」という言葉に、生まれて初めて自分がこの世に必要な存在であったと思えた。そして、母親への憎しみが薄れた頃、弘子さんは待望の子宝を授かる。やさしい夫と大きくなった娘に囲まれて、「いま・ここ・わたし」を充実させている。



## 足し算・掛け算の 人間関係

人と人との関係でも、結びあう縁によつてさまざまな現象が生まれます。双方にプラスとなる足し算の関係、相乗効果を生む掛け算の関係、そして引き算のような負の関係……。そのなかで、私たちはふつう足し算やかけ算の人間関係を望み、しかも、できれば自分と気の合う人や自分に都合のいい人つきあいたいと考えます。釈尊は、ご自身を殺害しようとして提婆達多を「提婆達多が善知識」と讃え尊ばれて、すべてから学ぶ姿勢を教えてくださっています。それを私たちの身近な人間関係に置き換えると、たとえ自分の足を引っ張るような相手であっても、受け入れることよって人生の可能性が大きくなるということです。そのように大らかな心で人とふれあうことができれば、豊かな人間関係を築いていけるのではないのでしょうか。

# 立正佼成会